

Inspiration of LIFE

まるで音楽のような人生

揖斐 暁美 ibi akemi

南葉山在住。幼少期よりピアノを学び、音大ではピアノを専攻。現在、自宅にてピアノ指導を行う。ご主人の転勤により、ドイツでの生活を経験。現地でもピアノの指導を行う。



A. ご主人がミラノに赴任中、家族でよく訪れたイタリア、コモの染色工場で購入した生地を使って暁美さんが手作したワンピース。まるで絵画のような絵柄が「イタリアこそその美」を思わせる。 B. フランスの友人宅の庭のマグノリアの落ち葉で作った、暁美さんの独創的な秋のクランツとテーブルセッティング。



季節

節によって美しい表情を見せる葉山の自然。湘南で生まれ育った暁美さんは、ここの秋谷でご主人と生活を送る。「玄関までのアプローチは、ヨーロッパで見た石畳を参考にベルギーで実際に使われていたものを取り寄せて造りました。相模湾越しに伊豆半島や富士山を一望できるウッドデッキや主人が造った庭。自然という大きなものの中に生かされていることを実感できる生活ですが、主人と子ども達の通学には大変な苦労を強いられますね。」

エネルギーに満ち溢れた暁美さんを語る中で、忘れてはならないのがドイツでのルーツ。元々好奇心旺盛な暁美さんの感性は、ドイツでの生活をターニングポイントとして花開くこととなる。「ドイツではよく家に招かれることがあります。初対面でも快く居間に通して下さる

のです。引っ越しのご挨拶に伺った近所のお宅では、リビングにチェンバロが置いてあり、私は大興奮！直ぐにバッハ・フランス組曲を演奏。その日をきっかけに、お嬢様にピアノを教えることに。」その他にも数々のエピソードが。たまたま親しくなった女性は、初代西ドイツ連邦首相「コンラート・アデナウアー」の孫娘さん。声楽家であったこともあり、その後幾度となく共演する。帰国の際にはその御両親の前で演奏を行った。「音楽は私にとってなくてはならない大切なもの。日々ピアノと向き合うことは勿論、日常のひらめきや感性、そして熟成する時間。自然と触れ合って真の美しいものを感じ、時に歌を歌ったり…ドイツで出会った数々のおもてなしや音楽、そして湘南での生活。その一つひとつは後に私の糧となり、表現へとつながっていったのです。」

秋谷の山の家には、芸術家が集まりその料理を堪能する。あるドイツ正統派の伝統を継承する巨匠は、毎年リサイクルで来日する度に過密なスケジュールを縫って夕食に訪れる。「私はすべて自己流ですので、特別な料理の腕はありません。いらして下さる方のことを思い浮かべ庭を歩いているうちに、喜びでイメージが湧いてきます。お料理は何にしましょう…テーブルには庭のお花や枝も飾りましょうか…？浮かんできたイメージをカタチにしていく瞬間。無性にワクワクしてしまうんです。」

何事にも喜びを見つけ人生を楽しむ暁美さんの周りには、自然と笑顔が集まる。人々を引き付けてやまないその感性は、ひらめきや感動を種として大きな花を咲かせ、まさに音楽のように心地よく人生を奏でる。

揖斐邸からの眺望▼